

ピンチを力に！オンライン認知症カフェのススメ

現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を休止している認知症カフェも多いことと思います。

「新しい生活様式」では、会議や研修はオンラインで開催するよう推奨されており、認知症介護研究・研修仙台センターによる『外出自粛時の認知症カフェ継続に向けた手引き』でも、オンラインによる認知症カフェ開催について大きく頁を割いて紹介されています。

しかし、実際の開催には心理的ハードルも高く、12月に実施した認知症カフェ運営状況調査においても、休止中の参加者へのフォローとして、動画の配信やオンラインカフェを開催するとの回答はありませんでした。

そこで、今回は、オンラインでの認知症カフェを開催するにあたっての問題点と解消方法について紹介していきたいと思っています。

オンライン認知症カフェ開催のためのQ&A

Q 周知方法

A 地区の回覧板を活用する

- ・参加者名簿が無い場合でも周知可能
- ・案内を個別送付する郵送料が不要
- ・地域に認知症カフェを再周知できる機会
- ・新規参加者を獲得できるかも？

Q 高齢者はオンラインを使えない

A ご家族の協力を！

- ・ご家族の協力を得られる土日に開催日を変更
- ・認知症の方の家族に参加してもらうチャンス

Q スタッフがオンラインを使えない

A ここは、是非がんばりましょう

- ・オンラインに強いボランティアの方の獲得
- ・オンラインを使えるようになれば、ボランティアの方との打ち合わせも面談でできるように

◎ オンライン認知症カフェの良いところ

- ・ソーシャルディスタンスを気にする必要が無いため、体を動かすプログラムの実施が可能
- ・新型コロナウイルス感染症の脅威が去った後もオンラインカフェを継続することで、移動手段が無い人も参加することができ、冬期間の継続開催も可能

オンラインの認知症カフェは、これまでの課題を解決するヒントとなるかもしれません

さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

テレビの取材が来た。ドキドキのインタビュー

去る12月15日、さくらんぼカフェにて、山形の県政情報を発信する番組、「やまがたサンデー5」の取材を受けました。放送は12月27日（日）の午後5時15分からだったので、この通信が皆様の手元に届いている現在、放送は終了しています。どなたか見られた方もいるでしょうか。

「テレビの取材」などは一般相談員佐藤も若年性認知症コーディネーターの草苺も受けたことがなく緊張し、ドキドキものでした。電話相談の風景を撮影。草苺・佐藤へのインタビュー。

さくらんぼカフェから込めたメッセージは「ご本人も、ご家族も『その人らしく』生活が継続できること」でしたが、上手く伝わったでしょうか。



「チームオレンジM's」(天童市)

明幸園 地域支援室 今野 繁昭

「チームオレンジM's」は、認知症サポーターによる認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を図る活動を行っています。認知症サポーターの皆さんに「ステップアップ講座」を受講していただき、チームを組んで認知症カフェの運営協力、見守りや傾聴といった支援を行っています。認知症カフェ「Mカフェ」をチームの交流拠点として、認知症の人や家族を支援し、認知症になっても安心して暮らせる街づくりをすすめる取り組みです。

現在、天童市内には 7,800 人を超えるサポーターの方がいますが、活動が見えてこないという現状や、支援者となって後押しをしたいという思いから、今回の取組が始まりました。サポーターの皆さんが活躍する場を作る。そのための実践力の向上、サポーターの組織化支援。それが事業の目的です。

この取り組みには、認知症に理解のある協力スタッフの力が重要となります。認知症の人に関心のある認知症サポーターの皆さんは、まさにうってつけの活躍の場と感じています。

認知症サポーターの皆さんにも、当たり前ですが様々なニーズがあります。ボランティアをしたい方、認知症の方や家族の方を支える活動をしたいと思っいらっしゃる方、専門職と一緒に家族の力になりたい等々。でも、今回感じたのは、認知症のことをもっと学びたい、見守りや声かけ等の仕方をもっと学びたいという参加者の思いです。何かしたい、活動したいと考える認知症サポーターの皆さんには、認知症カフェの協

力スタッフとしての活動は学びを深めるという意味でも、比較的敷居の低いものではないでしょうか。認知症カフェにとっても、協力スタッフの力は大きなものですし、何よりプロモーションの戦力になってくれると感じています。施設、事業所で長年集積されてきたノウハウや介護の方法論を、施設内で完結することなく地域で展開することに繋がっていると思います。今後はコンパクトな拠点を地域ごとに開設し、認知症になっても安心して暮らせる地域構築を展望しています。社会の一角に声をあげられない人々に寄り添うということは、制度や理論を乗り越えて、全体で包み込んでいく力が必要だと感じます。

「バタフライエフェクト」という言葉があります。わずかな変化によって、その後大きな異なった状態をつくりだしてしまうという現象。チョウチョの羽ばたきが、台風を引き起こすかもしれない、という寓話的仮説です。私たちの進めている「チームオレンジ」も、認知症サポーターという点を線にするための、ほんの小さなチョウチョの羽ばたきかもしれません。でも、それが大きな変化をもたらすとしたら、その可能性を強く信じたいと思います。



認知症カフェ後のミーティングの様子

インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

おかえりQR

～QRコードを読み取って現在地を送ることが出来る～

「家族の会」本部より、上記について情報提供がありました。

昭文社で提供している「おかえりQR」は、あらかじめ「オンライン登録サイト」で情報を登録しておき、高齢者やお子様の持ち物に「QRコード」シールを貼っておくものです。

高齢者などが一人歩きをしているのを見かけ、「迷っているかな」と気づいた方がコードを読み取り、ご家族へ発見メールを送ることができます。

シートは、郵便局・アマゾン・楽天などで購入することができます。

(問い合わせ: 03-6744-9589)



カフェ情報

オンライン 認知症カフェセミナー 2021

認知症介護研究・研修仙台センターより、動画配信による『認知症カフェセミナー』の開催案内がありました。

配信日時 1月30日(土)～
3月31日(水)
申込先 cafeseminar2021@dcnet.gr.jp
申込方法 件名に「カフェセミナー申し込み」と入力の上、上記アドレスへ空メールを送付
詳細 <http://www.dcnet.gr.jp/>

発行元：山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター(山形市 県小白川庁舎内)
電話・来所相談・カフェオープン 月曜～金曜日 昼12時～午後4時
TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。